

主 題：主がまず愛してくださった 3**聖書箇所：ヨハネの手紙第一 4章19節 (3章16-20節)**

「互いに愛し合いなさい」と聖書はイエス・キリストを信じる私たちひとり一人に勧告を与えました。なぜなら、それが神のみこころだからです。神は我々恵みによって救われたひとり一人が「互いに愛し合うこと」を望んでおられます。パウロはエペソ人への手紙4章32節でこのように言います。「お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。」。また、テトスへの手紙3章2節でも「また、だれをもそしらず、争わず、柔和で、すべての人に優しい態度を示す者とならせなさい。」と言っています。ことばは違っても、みことばは私たちに「兄弟を愛しなさい。主によって贖われたひとり一人は互いに愛し合っていくなさい。」とそのように教えるのです。

なぜ、私たちはこのことを継続して学び続けているのでしょうか？それはあなた自身が、また、私たちのこの教会が神のみこころを実践するものとなるためです。どんなに学んでも実践するまでは私たちの内に何も起こってこないし、教会の中にも何も起こって来ません。もし、私たちの教会が、そして、あなた自身が、主の栄光のために人に対して優しくあったり、お互いに優しくあったり、お互いが励まし合っていたり、お互いが助け合っていたり、そして、お互いが祈り合って互いに成長しようとしているなら、主がどれほどお喜びになるでしょう。そのような個人であって、そのような群れであつたら、どれほど主がお喜びになるか、そのことを考えるなら、私たちは今一度ここに戻って来なければいけないのです。兄弟を愛する者となるということです。ヨハネは繰り返し私たちに「兄弟を愛することは、その人の信仰、その人の救いが本物であるかどうかを知るための尺度である、物差しである。」ということをお教えしています。彼はくどいほど私たちに言います。ですから、恐らく、この学びを通して、信仰者の皆さんは自分の信仰が本物かどうか、そのことを何度も吟味して頂いたと思います。

確かに、救いに与っていながら、この兄弟を愛するという教えに対して、皆さんも実践するのは大変であると、そのことを実感していられると思います。すべての人を愛することはなかなか難しいと。確かに、私たちはみことばが教えるように、死からいのちに移った者であり、新しく生まれ変わった者であり、主ご自身のご性質の一部を頂く者となりました。しかし、だからと言って、この神の愛をもって私たちの隣人を、そして、特に主イエス・キリストを信じる兄弟を愛することは、出来るはずだと分かっているにもかかわらず現実には非常に難しいことです。救われる前のように、兄弟を憎むとか、憎み続けるということはないけれども、しかし、正直に言うと「嫌いな兄弟がいる」、「どうしても好きになれない姉妹がいる」と、そのような思いを抱くことは間違っていることを知っていても、なかなか心を変えることが出来ないと、正直に、皆さん、このような葛藤を経験されていませんか？

今日、私たちはヨハネが教えてくれるみことばを通して、どうしたらいいのかを学んでいきます。どうすれば私たちはそのような葛藤に勝利することが出来るのか？そして、神が望んでおられるように兄弟姉妹を愛することを実践できるのか、そのことを一緒に学んでいきます。

⑤兄弟を愛する人の模範 16節**愛の例：主イエス・キリスト**

まず、ヨハネは私たちに言います。「兄弟を愛するためには最高の模範である主イエスをいつも見上げ続けていくように。」と。今日のテキストであるⅠヨハネ3：16からです。皆さんもこれまでよく経験されたと思います。私たちに喜びが無くなっている時、感謝が無くなっている時は、主イエスを見上げているのではなくて、問題を見ていませんか？私たちの目を主から離れてしまつて、問題に目を留めてしまう時に私たちの心から喜びと感謝がなくなります。だから、私たちはいつも主を見上げていることが大切だと、そのことがよく分かっていますが、悲しいことに現実には、すぐに目を主から離れてしまつて、自分の抱えている問題に目を向けてしまうのです。そして、その結果、私たちに悲しいことが起こってしまうのです。ヨハネは私たちに「しっかりと主イエス・キリストを見上げていなさい。」と言います。16節のみことばを見てください。「キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。」、このみことばからヨハネは私たちに二つのことを教えてくれます。

(1) 主がどのような愛をあなたに望んでおられるのかを正確に知ること

私たちが兄弟を愛すると言ったときに、どのような愛をもって愛するべきなのか？そのことを知らな

ければいけないのです。「愛しています」と口で言うことは出来ます。自分なりの愛で愛していると言うかもしれません。でも問題は、神が望んでいる愛をもって愛しているかどうかです。ですから、まず私たちは、正確にどのような愛をもって愛するべきなのか、そのことを知る必要があります。このみことばはそのことを教えてくれるのです。「キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。」と言っています。この「愛」のことばの前に定冠詞が付いているのは、これはどのような愛でもかまわないということではありません。以前にも説明しましたが、ヨハネがここに記している「愛」は明らかに、ある特定の愛を意味しているのです。ヨハネはある「愛」を覚えながらこのみことばを記すのです。それは、この16節に記されている通り「イエス・キリストがご自分のいのちをお捨てになった」ということです。

この箇所を見ると、「お捨てになりました。」とあります。ご自分を犠牲になさったということです。イエス・キリストの十字架のみわざを見てヨハネは「あの十字架を見た時に、神が私にどんな愛をもって兄弟を愛するべきなのか、そのことを教えられます。」と言います。

◎イエス・キリストの十字架の愛が教えること

(a) 愛するという主のご意志

イエスはいよいよやがて十字架に掛かったものではありません。ご自分から進んで十字架にお架かりになったのです。身代わりとなって死んでくださったのです。その愛を実践しなさいと言うのです。だから「愛したい」とか「愛したくない」ではなく「愛する」と決心することです。このみことばはそのことをまず私たちに教えています。

(b) 罪人の身代わり

大きな犠牲を払ったのです。私たちも人々に対して喜んで犠牲を払って愛を示すことです。

(c) 私たちへの愛の証拠

そして、イエスの十字架を見る時に、その行動が、行為が、私たちが愛されていることを証明しました。私たちも行ないをもって兄弟を愛することです。

(2) 主の与えてくださった愛の力を正確に知ること

16節の後半に「ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。」とあります。イエスの愛を見て、それに倣って、私たちも同じように人々を愛して行くべきだとヨハネは私たちに教えてくれました。でも、このようなメッセージを聞くと、私たちは人を愛することの難しさを知っているゆえに、「大変難しい!」と思います。そして、皆さんはそのことを何度も経験されました。私たちが知らなければいけないのは、確かに、私たちの持って生まれて来た愛でもって人を愛することなど不可能だということです。でも感謝なことに、神の愛が私たちに信仰とともに与えられているということ、そのことを覚えておかなければいけないのです。ヨハネが言いたいことは、主イエス・キリストの恵みによって、あなたが罪赦された時に、あなたにはこの神の愛が与えられているということです。そして、あなたに与えられたこの神の愛というのは、大変な力を持っているということをヨハネは教えるのです。

なぜなら、私たちはイエス・キリストを見て「これほどの愛で私を愛してくださった」と言いますが、その神の愛が私たちに与えられているのです。そして、その愛が私たちの内にあって力強い働きを為すとヨハネは私たちに言い続けるのです。ですから、私たちに与えられた愛が私たちの内で働きを続けているなら、私たちは愛において成長するのです。しかし残念ながら、それを妨げるものが私たちの内に存在しています。罪です!

私たちにはこのキリストの愛、神の愛を実践出来ないように、しないように妨げようとする罪がいつも働くのです。先ほど見たように、「確かに、私はキリストの恵みによって救われました。しかし、どうしてもこの兄弟を、姉妹を愛することが出来ない」と、それが正直な私たちの弱さであり、私たちの問題です。私たちが気付かなければいけないのは、私たちに神から与えられた救いとはどういうものだったかということです。それは私たちに自由を与えるものでした。イエスはこのように言われています。ヨハネ8:32「そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」と。ここで言われている「真理」とは何でしょう?もちろん、真理とはイエスが話されたことば、真理です。同時に、イエスご自身が真理です。だから、主はこのように言われました。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」(ヨハネ14:6)と。確かに、イエス・キリストはすべての創造主なる神であり、そして、私たちを罪から救ってくださる救世主です。その真理は「この方を知ることによって、この方を信じることによって私たちは自由を得た」と言います。これが救いだと言います。つまり、皆さん、あなたがこの主イエス・キリストの恵みによって救われた時、この真理をあなたが信じた時、この真理を知った時に、あなたは自由とされた

のです。あなたがこれまでどうすることも出来なかったその罪のさばきから救い出されたということです。永遠の地獄に向かっていた人が、神の恵みによって、そのさばきから救い出されたのです。

それだけではありません。日頃、私たちを束縛し苦しめている罪の力からも束縛からも解放されたのです。だから、「自由とされた」と言うのです。それが信仰者である、クリスチャンである私たちなのです。永遠の滅びからも自由にされたのです。解放されたのです。そして、これまで罪の奴隷であった私たちはその束縛から解放されて自由となったのです。

そうすると、私たちが「だれかを愛することがなかなか出来ない」と言うとき、私たちは、私たちが再び、その罪の束縛のもとに自らを置いてしまっているのです。先ほど話したことを思い出してください。救われる前の私たちは愛において不完全でした。私たちはすべての人を愛することなどできなかった、すべての人を自分と同じように愛することが出来なかったのです。そのような者として生まれて来たのです。なぜなら、私たちは罪の束縛、罪の奴隷だったからそれが出来ない者だったのです。しかし、主があなたを救ってくださり、そのような束縛から解放して下さったことによって、そして、今まで見て来たように、あなたに神の愛が与えられたゆえに、あなたは出来ない者から出来る者へと変わったのです。神の愛をもって私たちは兄弟を愛することが出来る者になったのです。そのことはもうすでに、このヨハネの手紙から教えられて来ました。だから、もし、私たちが「愛することが出来ない」と言うなら、そのことを忘れてしまっているのです。私たちはかつての私たちがどうすることも出来なかった罪の束縛から解放されて、かつての私たちには出来なかったことが、救いを頂いた私たちには出来るということです。私たちはキリストの愛をもって兄弟を愛することが出来る者へと生まれ変わったのです。だから、皆さん、私たちはなかなか人を愛することができないという誘惑を経験するときに、覚えなければいけないことは、それは神の前に正しくないこと、罪だということです。

◎罪の束縛から自由にされたことを感謝して歩むためにどうすればいいのか？

(a) 罪の告白

「神さま、どうぞ赦してください。私はあの兄弟を愛することができていませんでした。赦してください。あなたは出来るとおっしゃった。あなたの愛が私に与えられたから、その愛をもって愛することが出来るように助けてください。」という罪の告白です。

(b) 聖霊なる神によって心が常に満たされること、守られること

私たちは自分の力でそれが出来ないのです。神の力が必要なのです。だから、常に私たちのすべてを神に満たし続けてくださることが必要なのです。聖霊の満たしが必要です。

(c) 聖書を読み、学ぶ

みことばによって私たちは養われていくのです。何度も言いますが、信仰の成長はみことばなしにはあり得ないのです。もし、あなたの信仰の歩みが成長しているなら、そこには必ずみことばがあります。みことばをしっかりと学びそれに従って行こうとするゆえに、あなたの信仰は成長していくのです。しかし、みことばを読もうともしない、学んだみことばを考えようとし、その結果は明らかです。信仰の成長を見ることが出来ないのです。しっかりとみことばを学び、それに従っていくことです。

(d) 祈り合う友

みな弱さを持っています。互いに励まし合い祈り合っていくことが必要です。この中で「私は祈りを必要としません」と言う人はいますか？みんな必要なのです。「だれも私のために祈ってくれない」と、そのように考える前にあなた自身がだれかのために祈る人になることです。この後、皆さんは「あなたのために何をお祈りしたらいいですか？」、「どんなことをお祈りしたらいい？」と互いに祈り合ってください。私たちはそのようにして祈り合っていくのです。

(e) 主に仕え続けていく

神は皆さんにすばらしい賜物をくださった。何のためにですか？その賜物を用いるためです。教会にあって、主の栄光のために仕えていくのです。私たちが与えられた賜物を用いようとし、悲しいことに、私たちの信仰はなかなか成長しません。

ですから、まず、私たちがこの16節のみことばを通して教えられるように、私たちはイエスが犠牲的な愛をもって、神の愛をもって私たちを愛して下さったから、そのような愛をもって私たちは兄弟姉妹を愛することが出来るようになったことです。だから、このように16節で「ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。」と言ったのです。そのような犠牲的な愛でもって私たちは愛することが出来るようになったのです。ですから、信仰者の皆さん、「私は愛することが出来ない」という不信仰を捨てることです。神の助けによってこれが実現できるという約束を信じて、この教えを実践していくことです。

ヨハネは16節の後半から、イエスのそのすばらしい愛を教え、そして、次は、その愛の実践ということに話を展開していきます。

⑥兄弟を愛することの実践 17-20節

16節cで「兄弟のために、いのちを捨てるべきです。」と主と同じ愛を実践しなさいと言い、17節にはその愛の実践のことが記されています。ヨハネはヨハネの福音書15:13で「人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。」と言いましたが、そのような究極の愛だけではなくて、日々の生活においても私たち信仰者は兄弟に対して愛を示していくことが必要だと、そのことをヨハネはこの17節から教えていくのです。「いのちを捨てる」という愛だけでなく、日々の生活において、兄弟姉妹たちが抱えている必要に対してもしっかりと応えていきなさいということを教えるのです。兄弟が困っているのを見るなら助けてあげなさいと。

(1) 悪い例 17節

「世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見ても、あわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょう。」と、ここでヨハネは悪い例を挙げています。二つのことが記されています。

(a) 兄弟が困っているという事実を知っている

ここで非難されている人は兄弟が困っている事実、兄弟の必要をちゃんと知っているのです。ですから、「兄弟が困っているのを見ても、」の「見ても」ということばがそれを意味するのです。これは「目的とか関心をもって見る、観察する」という意味です。つまり、ヨハネは悪い例として、人々の様子をよく見て、よく観察をして、そして、彼らの必要を正しく知っている、それでいながら、助けを与えようとしない、そのような人のことをここで挙げたのです。必要をよく知っているのです。何が問題か知っているのです。その上で助けの手を伸ばそうとしないのです。それがこの17節に出て来る悪い例の一つ目です。

(b) 助けを与えることを拒む

次は、知っていながら助けを与えることを拒んでいる人です。「あわれみの心を閉ざすような者に、」と書かれています。この「心を閉ざす」はこの箇所にはしか出てこないことばです。これは「ドアを閉める」ということです。必要をよく理解しているが、意図的にあわれみの扉を閉じてしまうということです。見て見ぬ振りをする、知らない振りをする。このことに関して申命記15章にはこのように記されています。15:7「あなたの神、【主】があなたに与えようとしておられる地で、あなたのどの町囲みのうちでも、あなたの兄弟のひとりが、もし貧しかったなら、その貧しい兄弟に対して、あなたの心を閉じてはならない。また手を閉じてはならない。」。心を閉じるな、手を閉じるな、そういう必要のある人々に対して心を開き、彼らに必要なものを提供してあげなさいと言うのです。

そして、Iヨハネ3:17の後半には修辞疑問が出て来ます。「どうして神の愛がとどまっているでしょう。」と。答えは明らかです。「とどまっていません」が答えです。このような人には神の愛がとどまっていないと言うのです。ここに「神の愛」と記されていますが、この「愛」は神に対する愛ではなくて、神ご自身の愛です。人々の必要を知り、そのことをよく理解していながら、その人たちに助けの手を伸ばさない人々、心を閉ざしてしまうような人、その人のうちには神の愛がないと言っているのです。なぜですか？神の愛があるなら、神が私たちにしてくださったように、私たちもその人たちに何か助けの手を伸ばそうとするからです。それが神の愛です。イエスが私たちにそのようにしてくださった通りです。その愛を頂いているなら、私たちはそのような行動を取ろうとします。だから、そのような行動を取ろうとしていないということは、神の愛自体がないと言うのです。

ヨハネは同じIヨハネ4:20でこのように言います。「神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。」、何度も見て来たように、神を愛する者は兄弟を愛すると言うのです。どのような愛で愛するのか？今日すでに学んで来たように、キリストが十字架で示された愛です。犠牲をもって喜んでその人たちの必要を満たそうとするその愛です。

ですから、ヨハネはこのように17節で悪い例を挙げます。その上で18節を見ていくと、この愛の実践が記されています。

(2) 愛の実践 18節

「子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行いと真実をもって愛そうではありませんか。」、「子どもたちよ」と呼びかけています。読者のクリスチャンたちに対する呼びかけです。「神の子どもたちよ。神の家族に属する者たちよ。」と。そのクリスチャンたちに対してヨハネは言います。「ことばや口先だけで愛することをしないで、却って、行ないと真実をもって愛しなさい。」と。

ヤコブも同じことを言っています。ヤコブの手紙 2 : 15 - 16 「もし、兄弟また姉妹のだれかが、着る物がなく、また、毎日の食べ物にもこと欠いているようなときに、:16 あなたがたのうちだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。暖かになり、十分に食べなさい」と言っても、もしからだに必要な物を与えないなら、何の役に立つでしょう。」と。どれほど口で言っても、本当に彼らの必要を満たしてあげないのなら、そのことばにどんな意味があるのか？ことばよりも彼らに必要なのは暖かい着物であり、食べ物だから、必要な物を提供しなさいということです。恐らく、ヨハネがここでこのように言ったのは、このとき、集まりの中で見せかけだけの愛、心のこもっていない形だけの行為が存在していたからでしょう。なぜなら、この 18 節に「愛そうではありませんか。」と書かれているこの「愛」は、「神の愛」である「アガペー」が使われているからです。

ですから、ヨハネが言わんとしていることは、キリストが愛されたその神の愛をもって、私たちは兄弟たちを愛していこうということです。繰り返しますが、それは可能なのです。なぜなら、救われた私たちにはこの「神の愛」が与えられているからです。その神の愛を頂いていないということは救われていない人です。そのようにヨハネは教えます。神の愛を頂いた者たちは、この愛をもって愛することが出来る者になったと。そして、「行ないと真実による愛」とあります。本当の愛をもって、本当の愛の心と行動をもって愛して行きなさいと言うのです。

具体的な例を挙げましょう。皆さんがよくご存じの聖書の話です。「良きサマリヤ人」の話を思い出してください。ルカの福音書 10 章に出て来ます。エルサレムからエリコに下る道で強盗に襲われた人の話です。この旅人は強盗に襲われて半殺しの目になります。ここで旅の途中のサマリヤ人は、半殺しの状態にあるこの人を見たのです。その人の状態、その人の必要です。何が必要なのか？みことばはこのように言います。ルカ 10 : 33 - 34 「ところが、あるサマリヤ人が、旅の途中、そこに来合わせ、彼を見てかわいそうに思い、:34 近寄って傷にオリーブ油とぶどう酒を注いで、ほうたいをし、自分の家畜に乗せて宿屋に連れて行き、介抱してやった。」と、手当が必要だということに彼は気付いたのです。そして、その必要に対して彼は答えていくのです。ケガを治そうし、治すために喜んで犠牲を払おうとしています。宿に連れて行って、そこで傷の癒しを待つようにと「費用は自分が払います」と言います。彼はこの人のために喜んで自分の時間をも犠牲にしています。イエスはこうして、隣人にあわれみの行為をすることこそ愛を示すことだと律法の専門家に教えておられるのです。「隣人を愛するとはどういうことですか？」と質問したこの律法の専門家に、主はこのようにして教えられたのです。隣人に対して、私たち信仰者は「このように愛を示しなさい」と言われました。まして、相手が兄弟であれば、どのような愛をもって彼らを愛するのか？そのことが分かります。

次に進む前に、ここに書かれている祭司とレビ人のことを見てみましょう。彼らは愛について教えていながら、愛の実践がなかったということです。重傷を負った人を見て、その傷口を見て、助けが必要なことを見て、そして、彼は知らぬ振りをしたのです。彼らはそのように選択をしたのです。彼らは彼のために時間を取ることも、自分たちのやらなければいけないことを優先しました。ケガ人よりも自分を愛するのです。

ですから、最初に話したことに戻って思い出してください。兄弟を愛することは難しいということについてです。「確かに、聖書の言っていることはよく分かるけれども、実際の生活において兄弟を愛することは難しい。」と言います。皆さん、一番難しいことは何でしょう？「兄弟を愛せない」ということの一歩根本的な問題は何でしょう？それは「愛そうとしない心」です。なぜなら、神はちゃんと教えてくださったではないですか？「愛することが出来る」と。神の愛を頂いた者はそれが実践できると見て来ました。でも、先程から見てるように、それを妨げようとする罪が私たちの内にはあるのです。いろいろな理由をつけて、自分が兄弟を愛さないその罪の行為を正当化するのは。「その人を愛する資格がない」とか、いろんな理由を付けます。ですから、私たちの一番の問題は「愛せないのではなく愛さない」ことです。愛したくないのです。

バビロンの捕囚を経験したユダの人々はバビロンの地にいました。彼らは預言者エゼキエルのメッセージを聞くのが大好きだったとみことばは教えます。預言者が神のことばを語る時に、この民は喜んで神からのメッセージを聞こうとするのです。でも、大きな問題があったのです。そのことについてエゼキエル書 33 章ではこのように記しています。33 : 31 「彼らは群れをなしてあなたのもとに来、わたしの民はあなたの前にすわり、あなたのことばを聞く。」、神はこのように言われました。ユダの民はエゼキエル、あなたの元にやって来てあなたのことばを聞く。その後このように続きます。「しかし、それを実行しようとはしない。彼らは、口では恋をする者であるが、彼らの心は利得を追っている。」と。この人々の問題が分かります。彼らはみことばを聞いているけれど実践しようとはしなかったのです。口では良いこ

と、もっともらしいことを言うのですが、心は神から離れているのです。口では神への献身を語っているが心は貪欲だったのです。神のみこころに従うのではなくて、自分のやりたいことをしたいと言うのです。私たちが覚えなければいけないのは、だから、彼らはこのさばきにあったということです。ユダがこのように神の審判を経験したのはなぜか？それは、彼らがみことばを聞いていながら実践しようとしなかったこと、彼らの心は神の前に閉ざされていたからです。彼らの関心事は自分たちのことばかりです。神が「こうなさい」と言ったのに彼らはしようとしません。神に逆らい続け、その結果彼らはこのようなさばきを経験したのです。

今の時代でも変わらないのです。主が「こうなさい」と言われるのに、私たちが意図的に反するなら、神は私たちにその選択が誤っていることを教えようとします。私たちは望みませんが、時には病いに伏することがあります。病いがみな罪から来ているとは言いません。しかし、罪が原因でそのようになってしまうことがあるとみことばは警告します。時には、死を経験するとも言っています。すべては神の愛の行為です。私たち自身が罪から目を覚まして正しい道を歩み始めるためです。こうして人間の罪は繰り返されて来ました。いつまで経ってもみことばを聞くだけでみことばを実践しようとしません。「兄弟を愛することができる」と聞いても、私たちは「いいえ、無理です!」と言ってしまうのです。私たちは私たちのこの不従順の罪に気付かなければいけないのです。

今日のテキストに戻って、ヨハネはここで二つのことを教えます。

*二つのレッスン

(a) 私たち信仰者ひとり一人が、主の模範に倣って愛するようにと促している

信仰者の皆さん、このみことばはあなたに「主があなたを愛してくださったその愛によって兄弟を愛しなさい」と言います。

(b) あなた自身が愛を示すようにあなた自身の行動を促す

もう一度16、17節のみことばを見てください。16節のみことばは「私たちのために…、私たちに愛がわかった…、ですから私たちは、…」とあり、これらは全部複数です。しかも「兄弟のために」の「兄弟」も複数形です。ところが、17節には「兄弟が困っている…」、これは単数です。そして、「あわれみの心を」はギリシャ語では「彼の心」と訳されてそのように記されています。日本語では「あわれみの心」と訳したのですが、「彼の心、個人の心」、単数です。16節では複数だったのが、17節では全部単数に変わっているのです。つまり、神が教えていることは、だれかがやればよいということではなくて、「あなたがやりなさい、あなたが愛を示しなさい。」ということです。私たちはすぐに、そのようなことをだれかの手に委ねようとするかもしれませんが、みことばが言うのは「あなたが行って助けてあげなさい。」です。

(3) 救いの証明 19-20節

「それによって、私たちは、自分が真理に属する者であることを知り、そして、神の御前に心を安らかにされるのです。20たとい自分の心が責めてでもです。なぜなら、神は私たちの心よりも大きく、そして何もかもご存じだからです。」と、ヨハネは再びここで「救いの証明」について語ります。もう何度も彼は繰り返して来ました。

(a) あなたが救われていること、あなたの救いが真実であること 19節

「自分が主に属する者であることを知り、」とあります。「真理に属する」とは何ですか？それは「神に属する」ということです。なぜなら、19節の初めに「それによって、」とあります。つまり、その前に掛かるわけです。「兄弟を愛する」ということです。このことをヨハネは繰り返して私たちに教えてくれました。「兄弟を愛する者は救われている」と。ここでヨハネは「兄弟を愛する者たち、あなたは真理に属する者だ」と言っているのです。ことばが違って同じことを言っているのです。ですから、あなたが真理に、あなたが神に属する者であると言うのです。

面白いことは、この19節の「自分が真理に属する者であることを知り、」の「知り」という動詞が未来形であることです。なぜ、ここで未来形を使ったのでしょうか？私たちがこの地上を歩んでいる時に、兄弟を愛するというその行為によって私たちは救われているという確信を持ちます。そして、私たちが主の前に立った時に、確かに私は救われていたと、そのことを改めて確信するということです。その約束をヨハネは私たちに与えてくれているのです。罪赦された皆さん、あなたの救いは永遠に約束されました。あなたは確実に主の前に立ち、そして、あなたはそこで豊かな祝福を頂きます。同じIヨハネ2:21にも「このように書いて来たのは、あなたがたが真理を知らないからではなく、真理を知っているからであり、また、偽りはすべて真理から出てはいないからです。」とある通りです。

ですから、続けてこう言います。19b節「そして、神の御前に心を安らかにされるのです。」と。神の

前で平安をもって立つことができる人と、神の前に恐れをもって立つ人がいます。ヘブル書に書かれているように、神の前に恐れをもって立つ人たちは、さばきを恐れて立つのです。なぜなら、その後に神の永遠のさばきがあるからです。しかし、私たち罪が赦された者たちは、神の前に恐れをもって立つではありません。心安らかに平安をもってこの方の前に立つのです。

(b) 主の御許に歓迎される 20節

なぜなら、この方が歓迎してくださるから、招いてくださるからです。なぜ、そのようなことが出来るか？私たちはもうすでに主との平和を得たからです。ローマ5：1に「ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。」とある通り、これがクリスチャンです。だから、この方の前に私たちは招かれて、そして、この方を初めてこの目で見るのです。私のために十字架で死んでくださったこの偉大な主を私たちはその時に目の当たりに見ることになる訳です。面白いことばが20節に出て来ます。「たとい自分の心が責めてでもです。」と。というのは、いろいろな時に様々な罪が私の心を責めるからです。日々、私たちが罪を犯すことによって私たちの心は責められます。ときに、私たちは正しくない罪悪感を持つことになります。「正しくない」と言ったのは、罪悪感を持つことが間違っているからです。確かに、私たちは罪を犯した時に「悪いことをした。主を悲しませることをした。」と心が痛みます。でも、ある人たちはそこからどんどん深みにはまって行ってしまっていて、「だから自分はダメな信仰者だ。自分は神に喜ばれることがないのだ。」と、そのような思いを抱くことを許してしまうのです。それは間違っているのです。なぜなら、神はそのようなことを全部ご存じの上であなただけを救ってくださったからです。神があなただけを清めてくださった時に、神はあなたのそのすべての罪を知った上で、あなたを清めてくださったのです。それなのに私たちは言うのです。「私なんてダメな人間です。ダメな信仰者です。」と。神があなただけを愛してあなたを迎え入れてくださったのに「私はダメだ！」と言うのです。

だから、私たちがたとい自分の心が責めることになったとしても、私たちは平安をもって神の前に立つことができるのです。なぜですか？見てください。「神は私たちの心よりも大きく、そして何もかもご存じだからです。」と書かれています。みことばが教えることは、神はあなたのすべてのことを知っている、あなた以上に知っている、あなたの過去の罪が赦されただけでない、現在の罪が赦されただけでない、未来のすべての罪も神は赦してくださったということです。こうしてあなたは救いに至ったのです。私たちが考える以上に、神は私たちのことを知っておられます。そして、私たちはこの神から完全な赦しを頂いたのです。だから、私たちは平安をもってこの方の前に立つことができるのです。ですから皆さん、私たちは地上にいて罪との葛藤があります。私たちが罪に敗北する時に、確かに、私たちは自分の罪に対して正しい反省をすることが必要です。「私は悪いことをした。主を悲しませることをしてしまいました。」と、そうして心が痛むこと、それは正しいのです。でも、だからと言って「私は正しくない喜ばれない信仰者だ！」と言って、どんどん深みにはまるのが間違っているのです。

どうすればいいのか？「神さま、私は確かに罪深い愚かな者です。でも、私はこの罪から離れたい、そして、あなたが助けてくださることを知っています。どうぞ、私を助けてください。あなたに喜ばれる者として歩んでいけるように私を助け続けてください。そして、何よりもこんな私を救ってくださったその恵みに感謝します。」と、そのようにして生きるのです。感謝をもって生きるのです。

「兄弟を愛すること」、それは救われた人の特徴であるとヨハネは言いました。主によって救われた者たちは兄弟を愛する者として生まれ変わったゆえに、兄弟を愛することが可能になりました。ですから、今日こうして礼拝に来られた皆さん、ぜひ、覚えてください。兄弟姉妹の皆さん、覚えてください。神の愛をもって私は兄弟を愛することが出来る者へと生まれ変わったということを。なぜなら、

- ・ 神が私たちに与えてくださったその愛には「いのち」がある。
→ですから、神がくださったその愛は、私たちに行動を生み出す力があります。
- ・ 神の与えてくださった愛には「ことば」がある。
→だから、私たちは愛に溢れたことばを語ります。
- ・ 神が与えてくださった愛には「足」がある。
→だから、私たちは必要のある人たちの所に出向こうとします。
- ・ 神が与えてくださった愛には「手」がある。
→だから、必要のある人を助けようとしています。
- ・ 神が与えてくださった愛には「涙」がある。
→だから、悲しむ人とともに悲しむのです。

このような働きを私たちの内にもたらしてくれる愛を私たちは頂いたのです。その愛によって「兄弟を

愛しなさい。それが出来る！」と主は私たちに教えてくださったのです。どうぞ、この新しい一週間もその愛を実践してください。神が喜んでくださるから、私たちの神の栄光が現わされるから。

《考えましょう》

1. 「兄弟を愛する者が救われている」とどうして言えるのでしょうか？
2. 「兄弟を愛することは難しいこと」ですが、主が愛されたように愛するためには、どうすればよいと思われますか？
3. 「行ないのない愛」が主に受け入れられないのはどうしてでしょう？
4. 「行ないをもって兄弟を愛すること」の具体的な例を挙げてください。